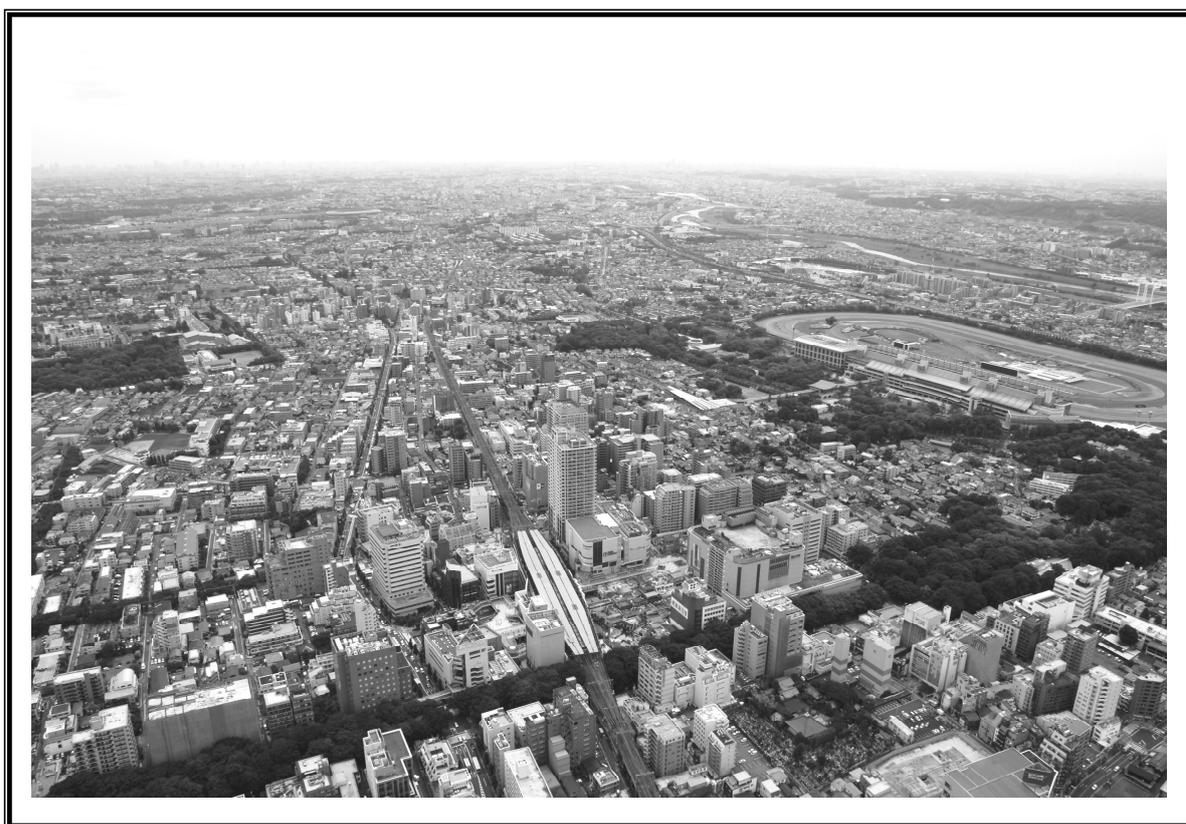


第44回
府中市市政世論調査
(概要版)



平成24年

府中市

< 目 次 >

府中市市政世論調査について	1
回答者の属性	2
【住み心地】について	3
府中市は住みよいところだと感じるか	3
【住まいの環境】について	4
身近な住まいの環境についての率直な感想	4
【生活の満足度】について	5
現在の生活にどの程度満足しているか	5
【定住意向】について	6
今後も府中市に住み続けたいと思うか	6
【市政に対する関心度】について	7
市政にどの程度関心を持っているか	7
【市への要望】について	8
府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと	8
【府中市の広報・情報発信】について	10
府中市の行政情報を入手するため利用する手段は何か	10
府中市の行政情報を容易に入手できていると感じるか	11
「広報ふちゅう」を読む頻度	12
「広報ふちゅう」の発行回数	12
【パートナーに対する暴力、人権侵害】について	13
パートナー間の行為に対するあなたの実感	13
パートナーから身体的、精神的、社会的、経済的暴力を受けたり、あなたの身近な人が受けているのに気づいたりしたことがあるか	13
「スクエア21・府中市女性センターの女性問題相談」を知っているか	14
【消費生活相談室】について	15
「消費生活相談室」を知っているか	15
「消費生活相談室」のサービスで、充実させてほしいもの	15
【消費生活のトラブル】について	16
商品の購入やサービスの提供でトラブルにあったことがあるか	16
【地域包括支援センター】について	17
「地域包括支援センター」の認知度	17
「地域包括支援センター」のサービスで強化すべきもの	18
高齢者の生活や介護に関する相談先	19

【災害時の避難所】について	20
自宅から一番近い一次避難所を知っているか	20
避難所の運営に協力できるか	20
避難所運営訓練が実施されたら参加するか	21
【防災ハンドブック】について	22
市で各家庭に配布した「防災ハンドブック」を知っているか	22

府中市市政世論調査について

府中市で、毎年実施してまいりました世論調査も、今回で第 44 回となります。

この世論調査は、市政に対するご意見・ご要望をお聞きし、諸施策に対する市民の皆様のお考えを把握することによって、今後の市政運営上の参考にさせていただくことを目的としております。

今回は市政全般のほか、「府中市の広報・情報発信」「パートナーに対する暴力、人権侵害」「消費生活相談室」「消費生活のトラブル」「クーリング・オフ制度」「地域包括支援センター」「超高齢化問題」「災害時の避難所」「防災ハンドブック」「消火器」「街頭消火器」についてお聞きしました。

本書は、調査結果の一部をまとめた概要版です。

ご協力いただきました市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

調査の方法

調査の地域	: 府中市全域
調査対象者	: 府中市在住の満 20 歳以上の男女
標本数	: 1,000 人
抽出方法	: 地点を用いた二段抽出法 (住民基本台帳の登録人口を 11 の文化センター地区に分け、その構成比により無作為に抽出する方法)
調査方法	: 面接聴取法
調査期間	: 平成 24 年 6 月 1 日(金)~平成 24 年 7 月 20 日(金)
有効回収数(率)	: 846(84.6%)

調査の内容

第 44 回特設設問

1 住み心地	7 府中市の広報・情報発信	13 超高齢化問題
2 住まいの環境	8 パートナーに対する暴力、 人権侵害	14 災害時の避難所
3 生活の満足度	9 消費生活相談室	15 防災ハンドブック
4 定住意向	10 消費生活のトラブル	16 消火器
5 市政に対する関心度	11 クーリング・オフ制度	17 街頭消火器
6 市への要望	12 地域包括支援センター	

注意事項

本書をご覧になる場合、次の点に注意してください。

(1) 百分率(%)の計算は、小数点第 2 位を四捨五入して表示しています。このため、単数回答(1 つだけ選ぶ設問)に表示された百分率を足し合わせても 100%にならない場合があります。また、複数回答(2 つ以上選んでよい設問)の設問の場合、百分率を足し合わせると 100%を超える場合があります。

(2) 図、表に表示された「n」は、各設問に対する回答者数を表します。

回答者の属性

有効回答数 846 件の属性別回答者数と構成比を表します。

[性別]

	回答者数	構成比(%)
男性	381	45.0
女性	457	54.0
(無回答)	8	0.9

[未婚・既婚]

	回答者数	構成比(%)
未婚	209	24.7
既婚(離別・死別含む)	613	72.5
(無回答)	24	2.8

[年齢]

	回答者数	構成比(%)
20～29歳	104	12.3
30～39歳	175	20.7
40～49歳	193	22.8
50～59歳	119	14.1
60～69歳	124	14.7
70歳以上	124	14.7
(無回答)	7	0.8

[職業]

	回答者数	構成比(%)
事務職	77	9.1
専門・技術職	153	18.1
労務・サービス職	84	9.9
役員・管理職	31	3.7
商・工・サービス業	37	4.4
自由業	36	4.3
農林漁業	1	0.1
内職・パート・フリーター	105	12.4
主婦(家事専業)	150	17.7
学生	32	3.8
無職	115	13.6
(無回答)	25	3.0

[ライフステージ]

	回答者数	構成比(%)
独身期	142	16.8
家族形成期	105	12.4
家族成長前期	106	12.5
家族成長後期・家族成熟期	118	13.9
高齢期	63	7.4
高齢者世帯	117	13.8
その他	155	18.3
(無回答)	40	4.7

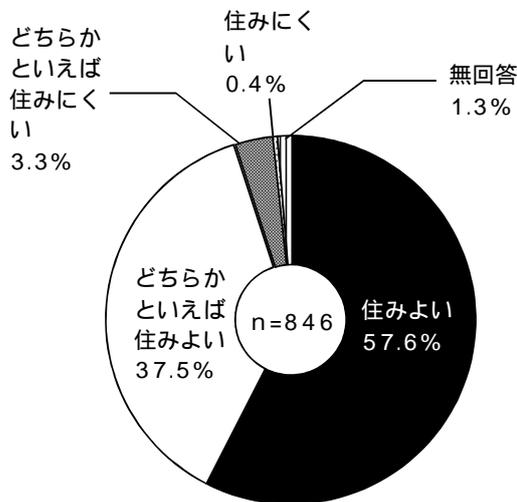
[地区]

	総人口	対象者数	調査数	回答率	回答者数	構成比(%)
紅葉丘文化センター	22,487	17,952	90	86.7	78	9.2
白糸台文化センター	28,868	23,855	120	82.5	99	11.7
押立文化センター	8,220	6,587	30	80.0	24	2.8
是政文化センター	24,482	19,672	100	78.0	78	9.2
住吉文化センター	26,400	21,211	100	84.0	84	9.9
片町文化センター	28,542	24,099	120	84.2	101	11.9
中央文化センター	38,200	31,943	140	82.9	116	13.7
新町文化センター	27,647	22,252	110	88.2	97	11.5
武蔵台文化センター	16,327	13,483	70	88.6	62	7.3
西府文化センター	17,821	14,114	70	90.0	63	7.4
四谷文化センター	12,872	10,126	50	88.0	44	5.2
総計	251,866	205,294	1,000	84.6	846	100.0

【住み心地】について

府中市は住みよいところだと感じるか (n=846)

半数以上が「住みよい」と感じ、「どちらかといえば住みよい」を合わせると、9割半ばが「府中市は住みよい」と感じている。



「住みよい」(57.6%)、「どちらかといえば住みよい」(37.5%)を合わせた『住みよいと感じる割合』は、9割半ば(95.1%)にのぼる。

また、「住みにくい」(0.4%)、「どちらかといえば住みにくい」(3.3%)を合わせた『住みにくいと感じる割合』は3.7%にとどまっている。

図1 住み心地

年代別では、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた『住みよいと感じる割合』は、「70歳以上」が最も高く、「30～39歳」が最も低い。

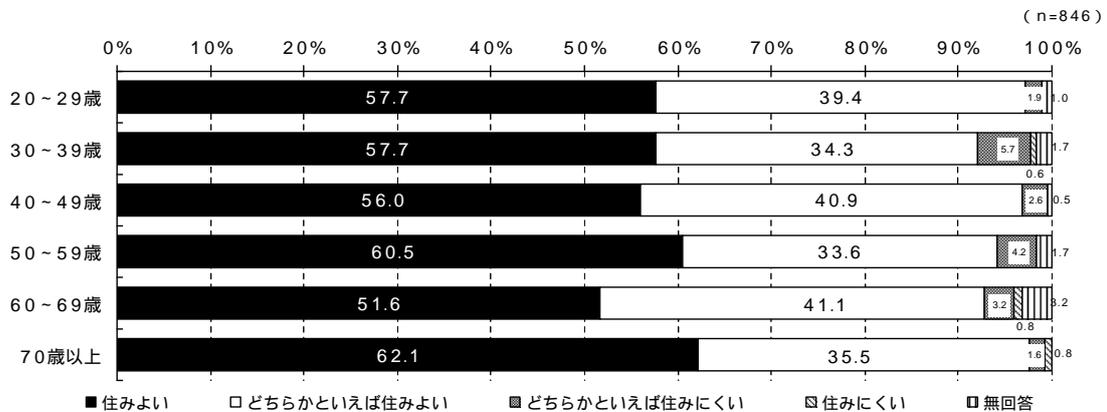


図2 住み心地(年代別)

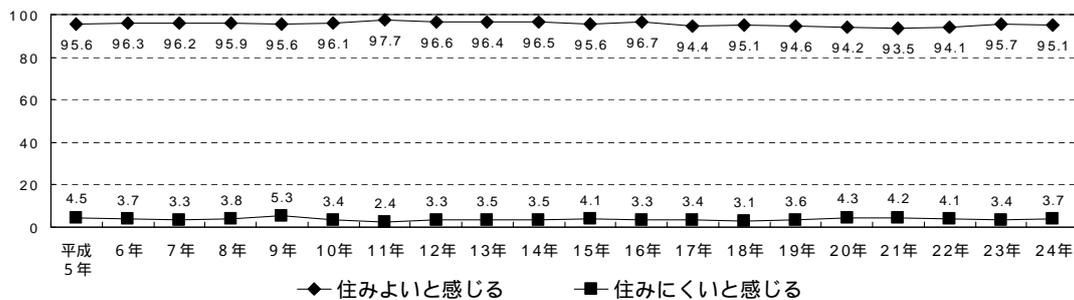


図3 経年別推移

【住まいの環境】について

身近な住まいの環境についての率直な感想 (n=846)

「緑の豊かさ」「排水の便」「交通の便」「風通し、日当たり」「日常の買い物の便」「公共施設」については7割以上が『非常によい』『まあよい』と感じている。一方、「蚊やハエの発生の防止」「騒音や振動の防止」「交通安全対策」「日常の買い物の便」の順で『あまりよくない』『非常に悪い』と感じる割合が高い。

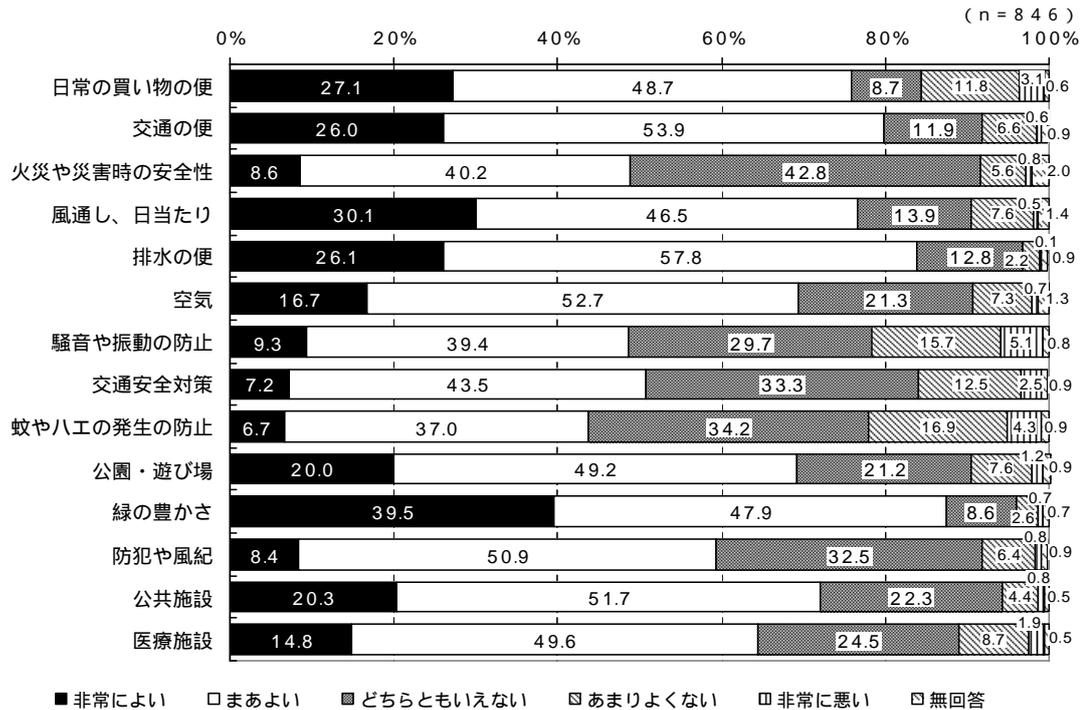


図 4 身近な住まいの環境についての感想

順位	住まいの環境	非常によい または まあよい (%)
1位	緑の豊かさ	87.4
2位	排水の便	83.9
3位	交通の便	79.9
4位	風通し、日当たり	76.6
5位	日常の買い物の便	75.8
6位	公共施設	72.0
7位	空気	69.4
8位	公園・遊び場	69.2
9位	医療施設	64.4
10位	防犯や風紀	59.3
11位	交通安全対策	50.7
12位	火災や災害時の安全性	48.8
13位	騒音や振動の防止	48.7
14位	蚊やハエの発生の防止	43.7

表 1 『よい』と感じる割合の順

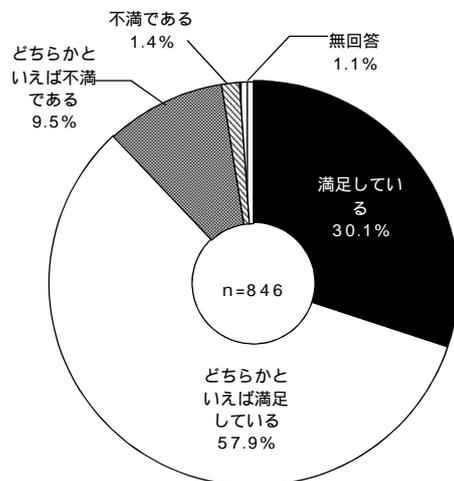
順位	住まいの環境	あまりよくない または 非常に悪い (%)
1位	蚊やハエの発生の防止	21.2
2位	騒音や振動の防止	20.8
3位	交通安全対策	15.0
4位	日常の買い物の便	14.9
5位	医療施設	10.6
6位	公園・遊び場	8.8
7位	風通し、日当たり	8.1
8位	空気	8.0
9位	交通の便	7.2
10位	防犯や風紀	7.2
11位	火災や災害時の安全性	6.4
12位	公共施設	5.2
13位	緑の豊かさ	3.3
14位	排水の便	2.3

表 2 『悪い』と感じる割合の順

【生活の満足度】について

現在の生活にどの程度満足しているか (n=846)

「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせると、9割近くが『生活に満足している』と感じている。



「満足している」(30.1%)、「どちらかといえば満足している」(57.9%)を合わせた『生活に満足していると感じる割合』は、9割近く(88.0%)を占める。

また、「不満である」(1.4%)、「どちらかといえば不満である」(9.5%)を合わせた『生活に不満を感じる割合』は、約1割(10.9%)である。

図5 生活の満足度

年代別では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『生活に満足していると感じる割合』は、「40歳代」(91.2%)が最も高く、「60歳代」(83.9%)が最も低い。

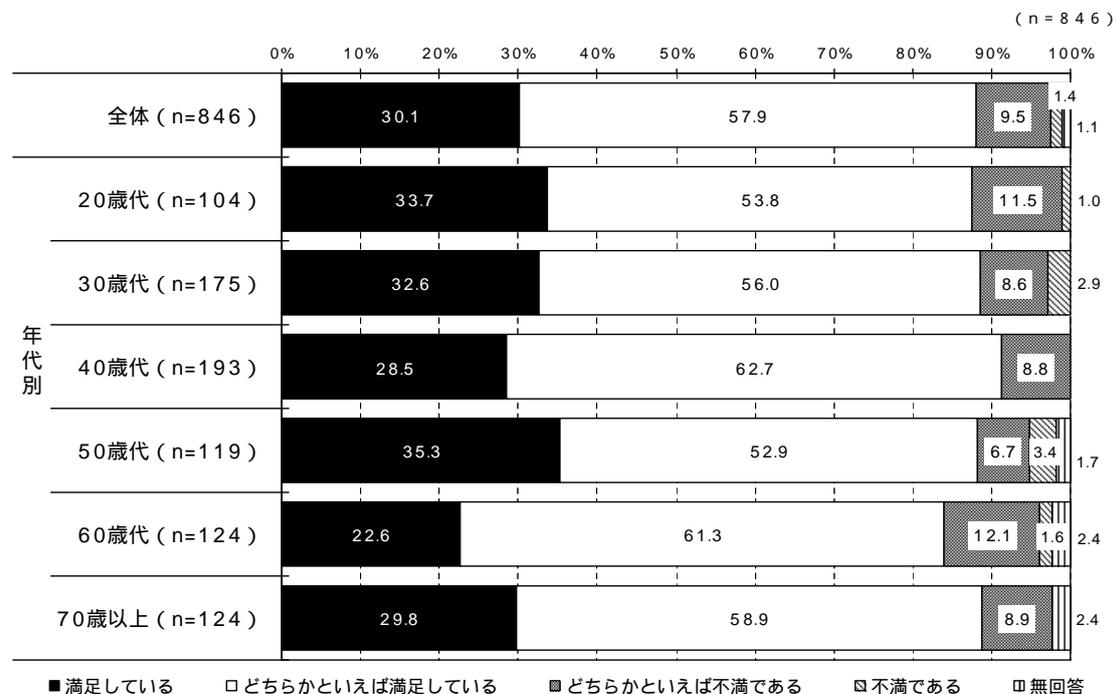
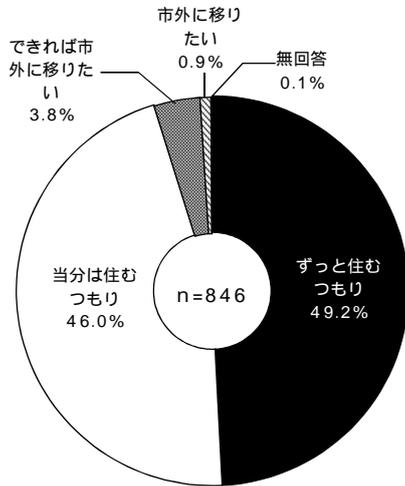


図6 生活の満足度(年代別)

【定住意向】について

今後も府中市に住み続けたいと思うか (n=846)

「ずっと住むつもり」「当分は住むつもり」を合わせると、9割半ばが「今後も府中市に住み続けたい」と感じている。



「ずっと住むつもり」(49.2%)、「当分は住むつもり」(46.0%)を合わせた『今後も府中市に住み続けたいと感じる割合』は、9割半ば(95.2%)を占める。

また、「市外に移りたい」(0.9%)、「できれば市外に移りたい」(3.8%)を合わせた『市外に移り住みたいと思っている割合』は、4.7%である。

図7 定住意向

年代別では、「ずっと住むつもり」と「当分はずっと住むつもり」を合わせた『今後も府中市に住み続けたいと感じる割合』は、「40歳代」(99.5%)が最も高く、「20歳代」(88.5%)が最も低い。

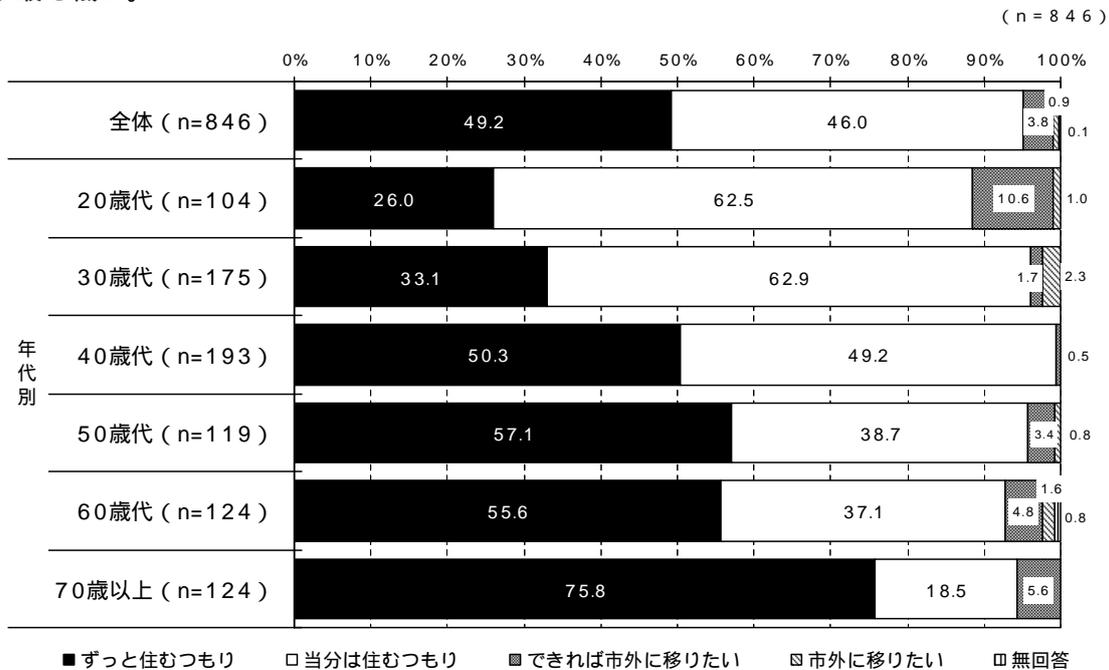
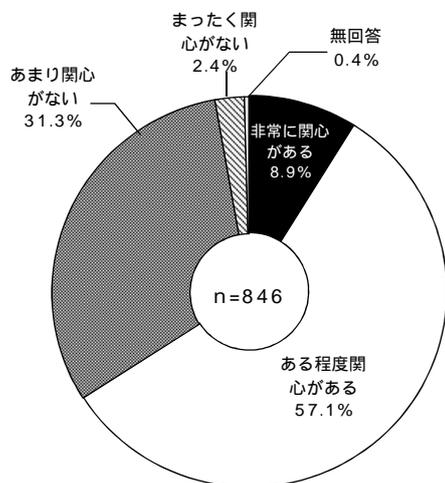


図8 定住意向(年代別)

【市政に対する関心度】について

市政にどの程度関心を持っているか (n=846)

「非常に関心がある」「ある程度関心がある」を合わせると、6割半ばが市政に関心を持っている。



「非常に関心がある」(8.9%)、「ある程度関心がある」(57.1%)を合わせた『市政に関心がある』割合は66.0%で、6割半ばが市政に関心を持っている。

一方、『市政に関心がない』割合は、「まったく関心がない」(2.4%)、「あまり関心がない」(31.3%)を合わせた33.7%である。

図9 市政に対する関心度

年代別では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『市政に関心を持っている割合』は、「70歳以上」(86.2%)が最も高く、「20歳代」(35.6%)が最も低い。

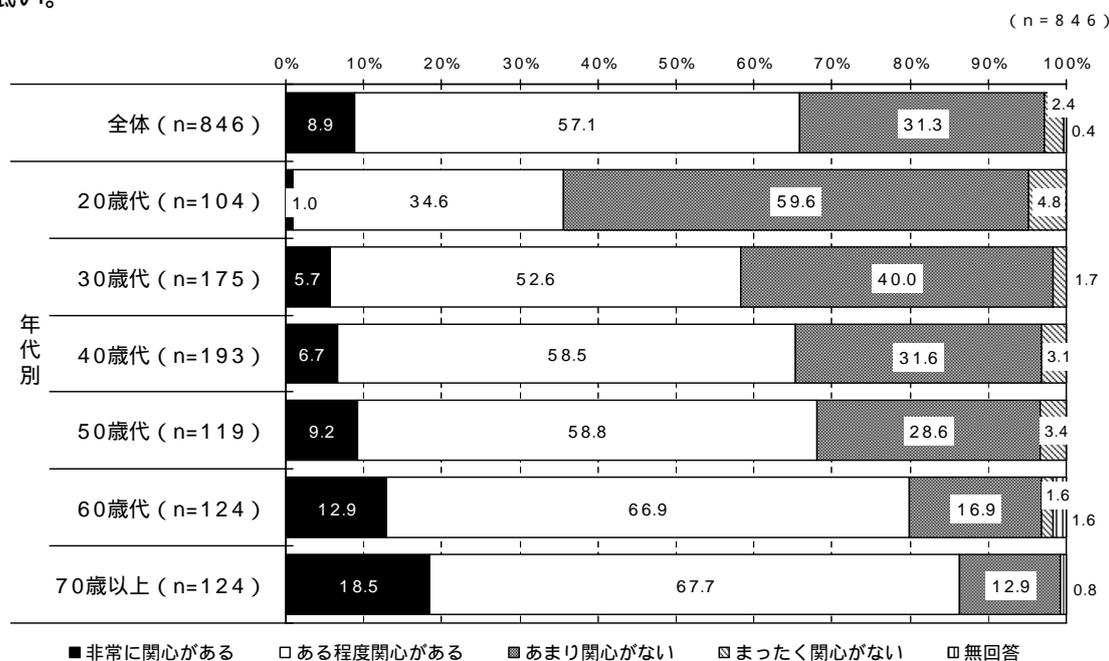


図10 市政に対する関心度(年代別)

【市への要望】について

府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと（n=846：複数回答）

市への要望として、「高齢者福祉対策」（35.6%）「防犯・風紀対策」（28.1%）の順に高くなっている。これらに続いて「市民の健康管理対策」（17.8%）「交通安全対策」（17.3%）「消防・防災対策」（15.2%）の順となっている。

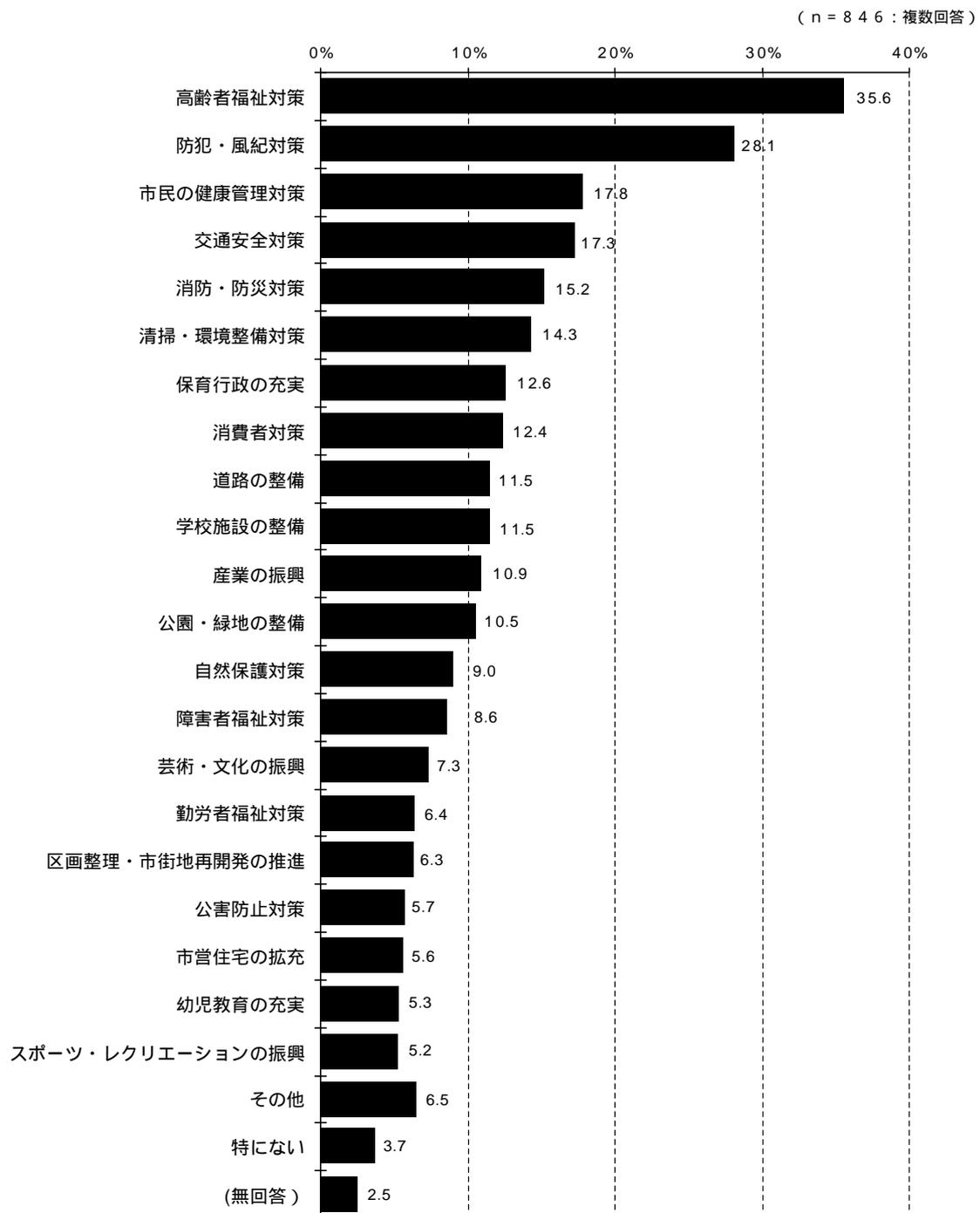


図 11 市への要望

上位5項目について平成15年度からの順位変動を見ると、今年度1位の「高齢者福祉対策」は平成17年度以外常に1位となっている。「防犯・風紀対策」は、17年度から新たにに加えられ、常に上位となっている。3位の「市民の健康管理対策」は毎年上位5項目に含まれている。「交通安全対策」は、平成16年度以来の上位5項目入りとなった。「消防・防災対策」は昨年に続き今回も5位となっている。

	n	1位	2位	3位	4位	5位
平成24年	846	高齢者福祉対策 35.6%	防犯・風紀対策 28.1%	市民の健康管理対策 17.8%	交通安全対策 17.3%	消防・防災対策 15.2%
23年	835	高齢者福祉対策 34.4%	防犯・風紀対策 26.7%	清掃・環境整備対策 18.1%	市民の健康管理対策 17.0%	消防・防災対策 16.4%
22年	889	高齢者福祉対策 43.5%	市民の健康管理対策 27.0%	防犯・風紀対策 21.9%	清掃・環境整備対策 19.6%	自然保護対策/ 消費者対策 15.7%
21年	881	高齢者福祉対策 42.0%	防犯・風紀対策 27.0%	清掃・環境整備対策 26.6%	市民の健康管理対策 20.0%	消費者対策 16.1%
20年	889	高齢者福祉対策 42.2%	防犯・風紀対策 30.6%	清掃・環境整備対策 25.8%	市民の健康管理対策 18.3%	消費者対策 15.3%
19年	892	高齢者福祉対策 41.8%	清掃・環境整備対策 32.0%	防犯・風紀対策 31.8%	市民の健康管理対策 16.1%	消費者対策 12.4%
18年	882	高齢者福祉対策 42.7%	防犯・風紀対策 34.5%	清掃・環境整備対策 17.6%	市民の健康管理対策 14.5%	自然保護対策 13.5%
17年	851	防犯・風紀対策 42.1%	高齢者福祉対策 38.1%	清掃・環境整備対策 17.3%	市民の健康管理対策 15.7%	道路の整備 13.2%
16年	876	高齢者福祉対策 38.5%	市民の健康管理対策 20.1%	清掃・環境整備対策 18.0%	自然保護対策 17.6%	交通安全対策 16.1%
15年	848	高齢者福祉対策 42.2%	市民の健康管理対策 20.8%	清掃・環境整備対策 16.3%	道路の整備/交通安全対策 15.9%	

表3 市への要望 (上位5位の経年推移)

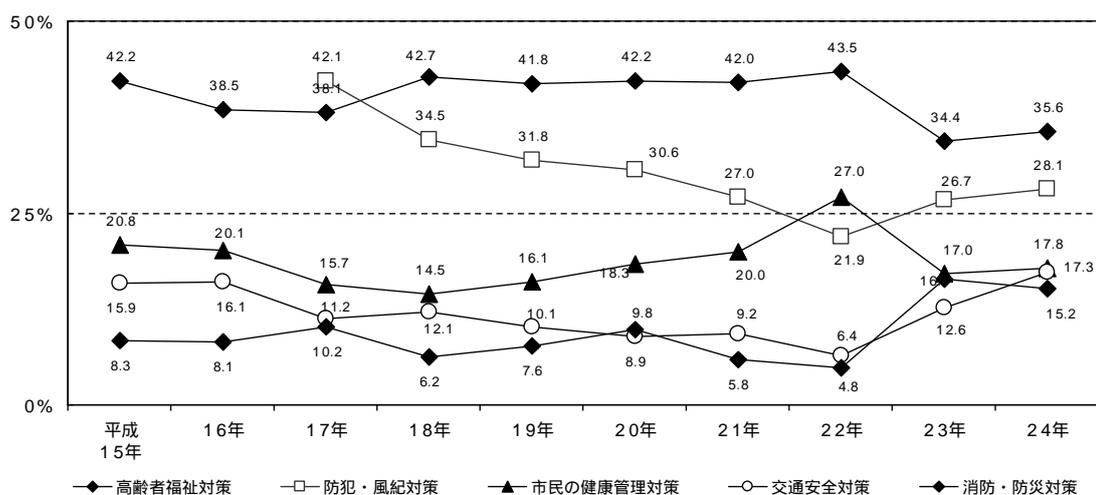


図12 市への要望 (上位5位の経年推移)

【府中市の広報・情報発信】について

府中市の行政情報を入手するため利用する手段は何か（n=846：複数回答）
行政情報を入手（読む・見る・聞く）するための手段として、8割近くが「市の広報紙「広報ふちゅう」」を利用している。

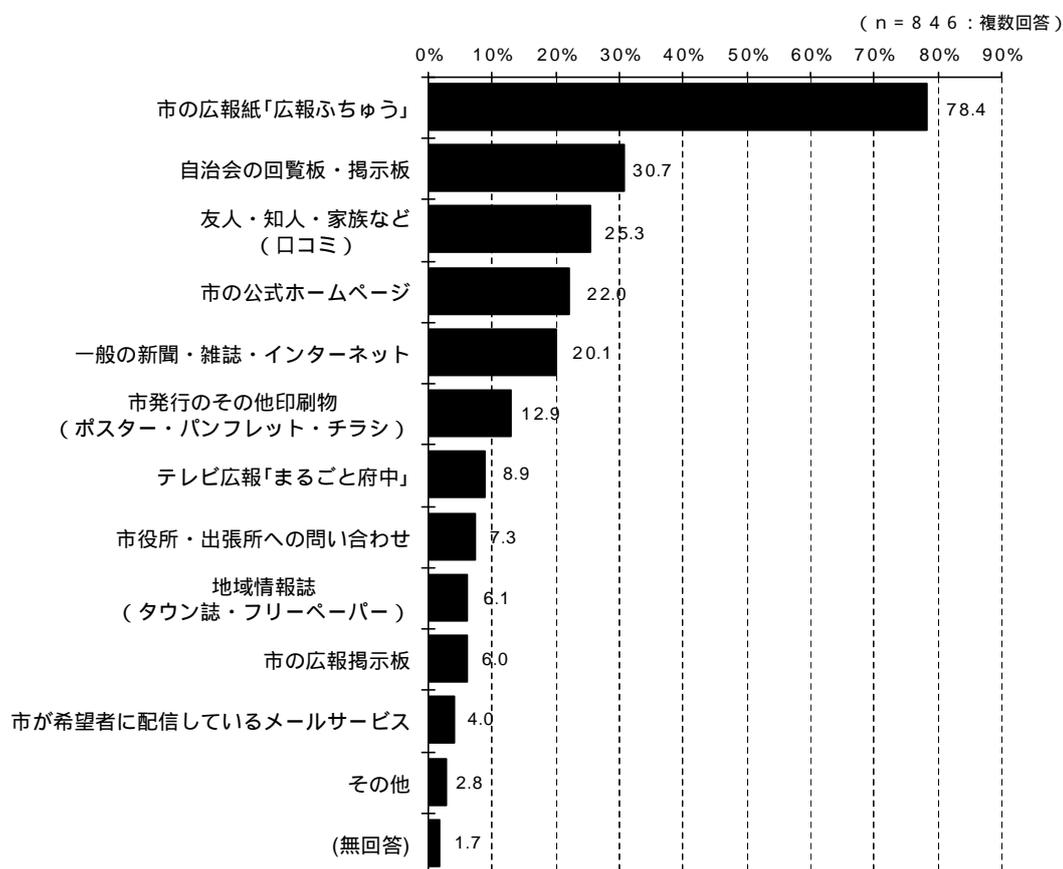
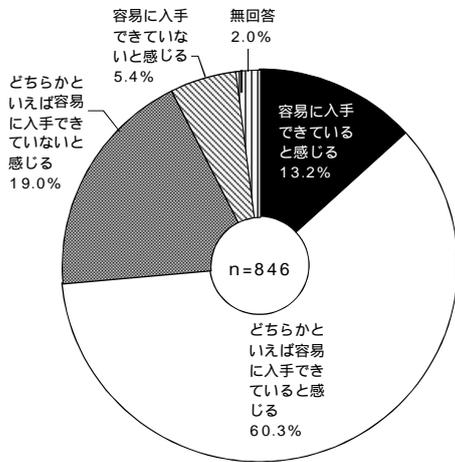


図 13 府中市の行政情報を入手するために利用する手段

行政情報を入手するための手段として、8割近くが「市の広報紙「広報ふちゅう」」(78.4%)を利用している。続いて、「自治会の回覧板・掲示板」(30.7%)、「友人・知人・家族など(口コミ)」(25.3%)、「市の公式ホームページ」(22.0%)、「一般の新聞・雑誌・インターネット」(20.1%)の順になっている。

府中市の行政情報を容易に入手できていると感じるか (n=846)

「容易に入手できている」「どちらかといえば容易に入手できている」を合わせると、7割半ばが『行政情報が容易に入手できている』と感じている。

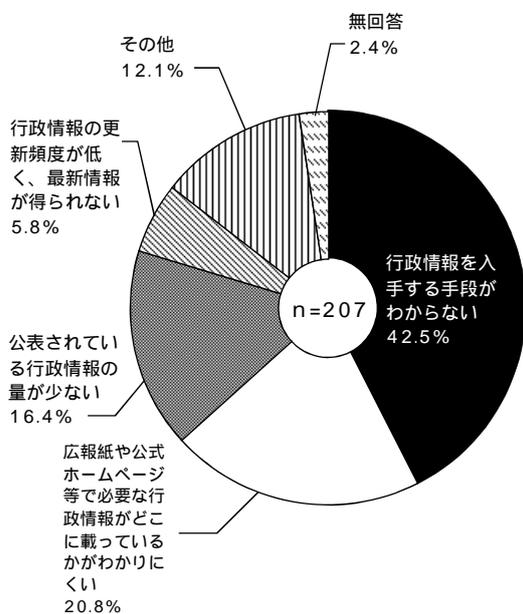


「容易に入手できている」(13.2%)、「どちらかといえば容易に入手できている」(60.3%)を合わせた『行政情報を容易に入手できている』と感じる割合は、7割半ば(73.5%)を占める。

一方、『行政情報を容易に入手できていない』と感じている割合は、「容易に入手できていない」(5.4%)、「どちらかといえば容易に入手できていない」(19.0%)を合わせた24.4%である。

図 14 行政情報の入手

『行政情報を容易に入手できていない』と感じる理由として、「行政情報を入手する手段がわからない」が4割半ばを占めている。



「行政情報を入手する手段がわからない」(42.5%)、「広報紙や公式ホームページ等で必要な行政情報がどこに載っているかがわかりにくい」(20.8%)、「公表されている行政情報の量が少ない」(16.4%)の順になっている。

図 15 行政情報を入手できていないと感じる理由

「広報ふちゅう」を読む頻度 (n=846)

「必ず毎号読んでいる」「だいたい毎号読んでいる」「ときどき読んでいる」を合わせると、8割近くが広報紙「広報ふちゅう」を読んでいる。

「広報ふちゅう」を読む(「必ず」「だいたい」「ときどき」読む)場合、どの程度読むかでは、「すべてを詳しく読む」(6.5%)、「すべてをざっと読む」(45.3%)を合わせると約半数(51.8%)がすべての記事に目を通している。

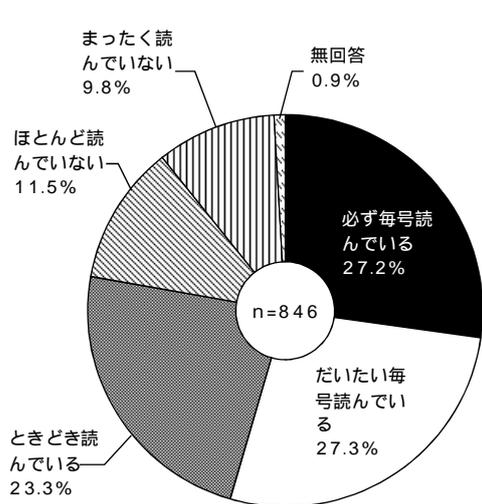


図 16 「広報ふちゅう」を読む頻度

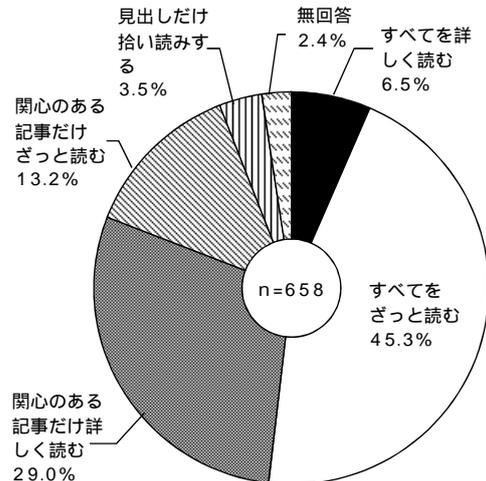


図 17 「広報ふちゅう」を読む程度

「広報ふちゅう」の発行回数 (n=846)

「現在の月に3回の発行回数が適当」(46.6%)が4割半ばを占める。

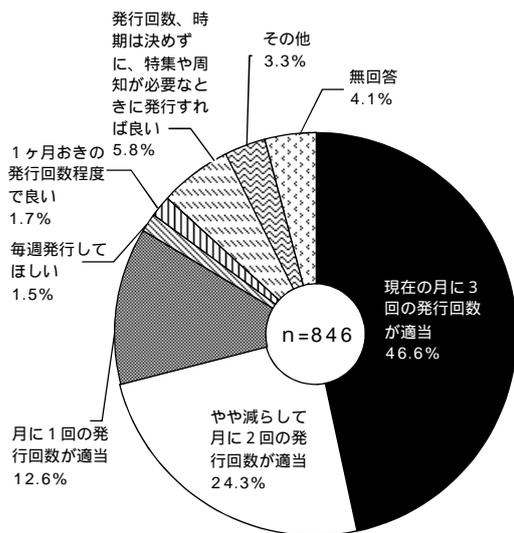


図 18 「広報ふちゅう」の発行回数

「現在の月に3回の発行回数が適当」(46.6%)が4割半ばを占め、「やや減らして月に2回の発行回数が適当」(24.3%)、「月に1回の発行回数が適当」(12.6%)の順となっている。

【パートナーに対する暴力、人権侵害】について

パートナー間の行為に対するあなたの実感 (n=846)

「パートナーの交友関係や電話やメールなどを細かく監視する」は、7割半ばが許されないと感じている。

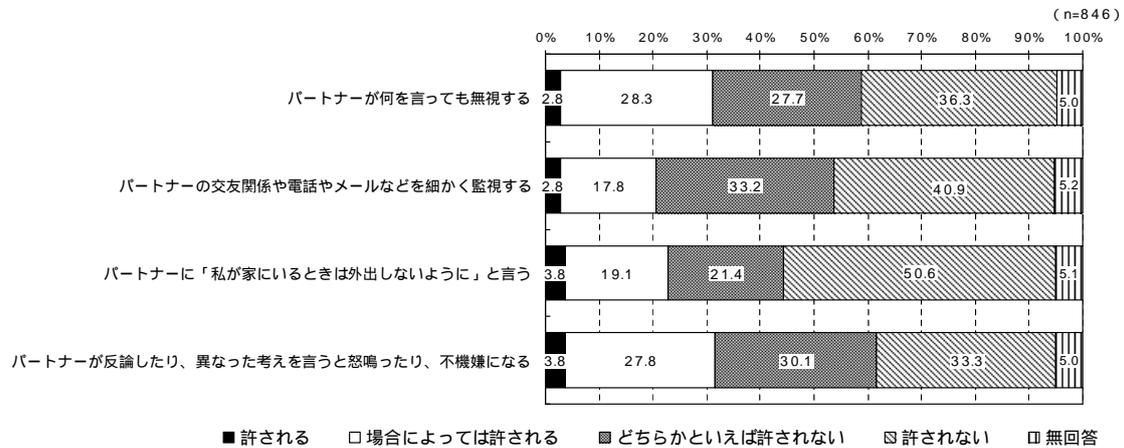
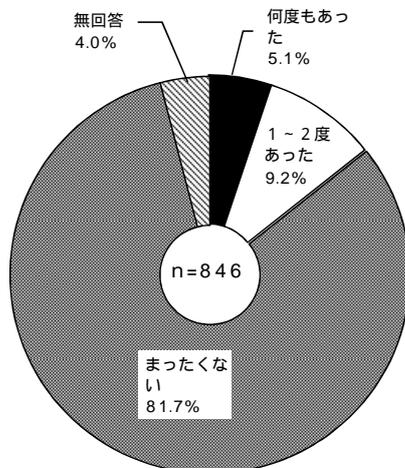


図 19 パートナー間の行為に対する実感

許されない行為と感じている割合（「許されない」「どちらかといえば許されない」を合わせた値）は、「パートナーの交友関係や電話やメールなどを細かく監視する」（74.1%）、「パートナーに「私が家にいるときは外出しないように」と言う」（72.0%）の順で7割を超えている。

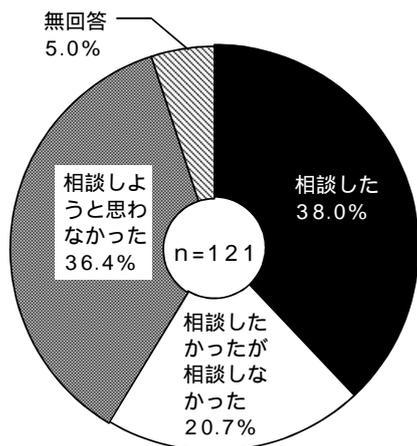
パートナーから身体的、精神的、社会的、経済的暴力を受けたり、あなたの身近な人が受けているのに気づいたりしたことがあるか (n=846)

暴力を受けたり気づいたりしたことがある割合は1割半ば(14.3%)あり、そのうち『だれ(どこ)かに相談した』ことがあるのは4割近くである。相談先としては、「家族・親戚」(65.2%)、「友人・知人」(50.0%)が5割を超えている。



「何度もあった」(5.1%)、「1~2度あった」(9.2%)を合わせた『パートナーから暴力を受けたり、気づいたりしたことがある』割合は、1割半ば(14.3%)である。

図 20 パートナーからの暴力



だれ(どこ)かに「相談した」は4割近く(38.0%)である。

「相談したかったが相談しなかった」(20.7%)、「相談しようと思わなかった」(36.4%)を合わせた『相談しなかった』割合は、5割半ば(57.1%)である。

図 21 パートナーからの暴力の相談

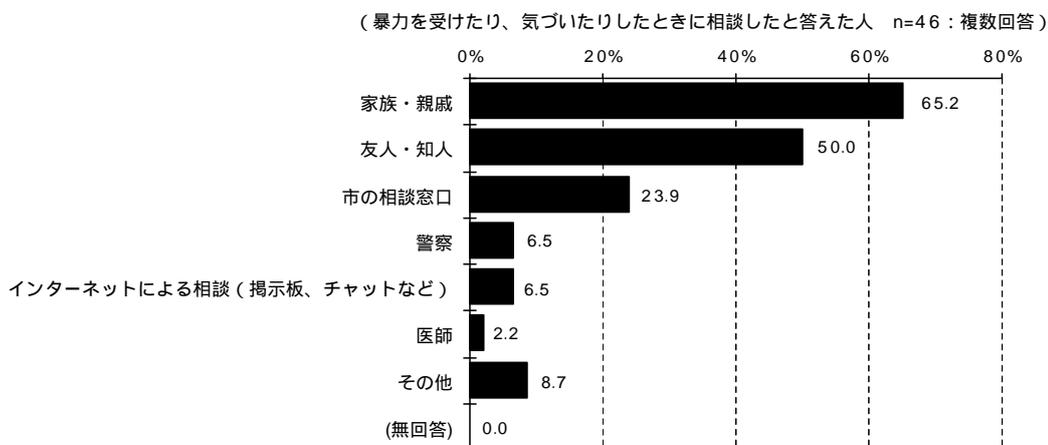
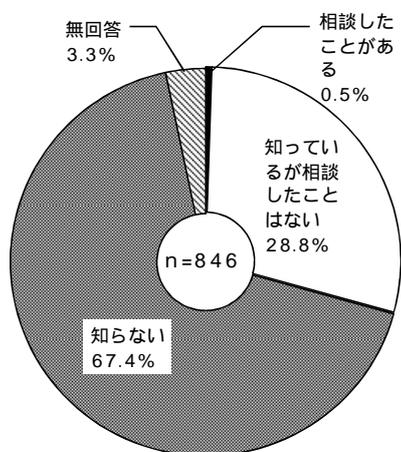


図 22 パートナーからの暴力の相談先

「スクエア 21・府中市女性センターの女性問題相談」を知っているか (n=846)

「相談したことがある」は 0.5% である。6割半ばが「知らない」と回答。



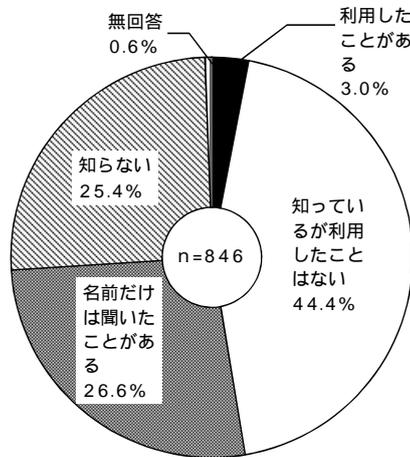
「スクエア 21・府中市女性センターの女性問題相談」を「知らない」(67.4%)が6割半ばを占める。「相談したことがある」(0.5%)、「知っているが相談したことはない」(28.8%)を合わせた『知っている』割合は、約3割(29.3%)ある。

図 23 「スクエア 21・府中市女性センターの女性問題相談」を知っているか

【消費生活相談室】について

「消費生活相談室」を知っているか (n=846)

『消費生活相談室』を「利用したことがある」割合は3%にすぎない。



『消費生活相談室』を知っている割合（「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」「名前だけは聞いたことがある」を合わせた割合）は7割半ばを占めているが、実際に「利用したことがある」割合は3%にすぎない。

図 24 「消費生活相談室」を知っているか

「消費生活相談室」のサービスで充実させてほしいもの (n=846：複数回答)

「消費者被害情報の公開と注意の呼びかけ」が5割半ばで最も多く、「悪質商法についての相談」(36.2%)、「架空請求(メール・サイト・郵便等)の通報(情報提供)の受付と相談」(34.8%)と続く。

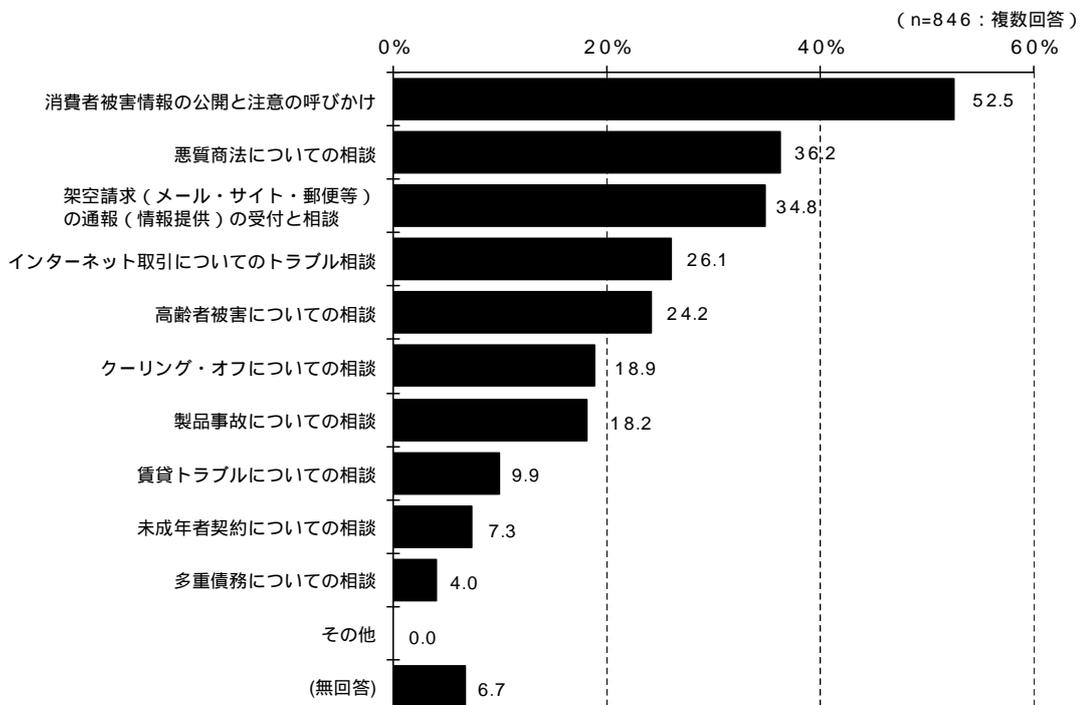
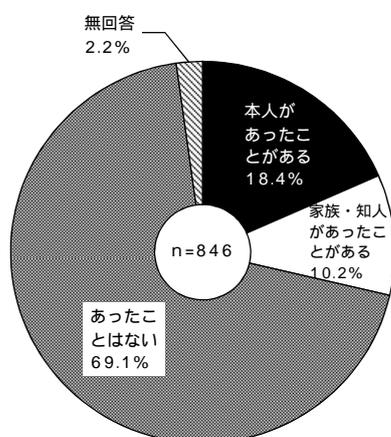


図 25 「消費生活相談室」のサービスで充実させてほしいもの

【消費生活のトラブル】について

商品の購入やサービスの提供でトラブルにあったことがあるか (n=846)

3割近くが何らかのトラブルにあったことがある。



『トラブルにあったことのある』割合
 (「本人があったことがある」(18.4%)、
 「家族・知人があったことがある」
 (10.2%)を合わせた割合)は、3割近く
 (28.6%)である。

図 26 商品の購入やサービス提供でのトラブル

トラブルの内容は、「自宅を訪問され商品やサービスなどの契約を勧誘された」(38.8%)が4割近くで最も多く、「電話で商品やサービスなどの契約を勧誘された」(31.0%)、「街中でアンケートなどで呼び止められたところ、商品やサービスなどの契約を勧誘された」(23.6%)の順となっている。

(消費生活のトラブルに本人があったことがある、家族・知人があったことがあると答えた人 n=242:複数回答)

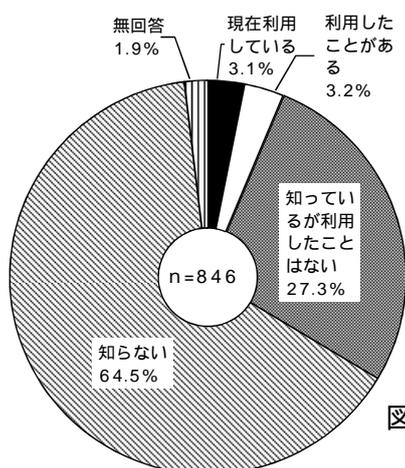
消費生活トラブルの内容	割合(%)
自宅を訪問され商品やサービスなどの契約を勧誘された	38.8
電話で商品やサービスなどの契約を勧誘された	31.0
街中でアンケートなどで呼び止められたところ、商品やサービスなどの契約を勧誘された	23.6
電子メールや郵便で身に覚えのない請求をされた	20.7
通信販売などで購入したがイメージと違った商品が届いた	19.0
知人に紹介すれば儲かると言われ、商品の契約を勧誘された	12.0
日用品の安売りや講習会の会場に行ったところ、高額な商品の契約を勧誘された	10.7
高額な収入が得られる仕事だと言われ、必要な器材や講習会の契約を勧誘された	10.3
自宅に申し込んでいない商品が送りつけられてきた	2.9
その他	9.9
(無回答)	0.8

表 4 消費生活トラブルの内容

【地域包括支援センター】について

「地域包括支援センター」の認知度 (n=846)

「地域包括支援センター」を『知っている』は3割半ば(33.6%)であり、利用したことがある割合は1割に満たない。「地域包括支援センター」は、「広報ふちゅう」や市のホームページで知った」が約半数(50.4%)を占め、業務内容として知っていることでは、「高齢者等の様々な相談支援」が7割半ば(73.6%)で最も多い。



『知っている』『現在利用している』『利用したことがある』『知っているが利用したことはない』の割合)は、3割半ば(33.6%)である。

図 27 「地域包括支援センター」の利用

(「現在利用している」「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」と答えた人 n=284:複数回答)

「地域包括支援センター」を何で知ったか	割合 (%)
「広報ふちゅう」や市のホームページで知った	50.4
家族・友人から聞いて知った	20.1
介護保険の申請で知った	12.0
民生委員・自治会・老人会・サークル活動等で知った	10.9
チラシやポスターで知った	10.2
近所なので知っていた	7.7
市役所で紹介されて知った	6.3
地域包括支援センターが実施する講座等に参加して知った	6.3
地域包括支援センターの職員の訪問などで直接知った	4.9
医療機関からの紹介で知った	4.9
その他	7.7
(無回答)	8.8

表 5 「地域包括支援センター」を何で知ったか

(「現在利用している」「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」と答えた人 n=284:複数回答)

「地域包括支援センター」の業務・機能で知っていること	割合 (%)
高齢者等の様々な相談支援	73.6
介護保険の申請にかかわること	46.8
介護予防講座開催	28.9
見守りネットワーク事業の拠点	27.8
医療機関と介護・福祉との連携体制の構築	27.8
地域のネットワークづくり	19.4
認知症サポーターの養成等(認知症の正しい理解を普及・啓発)	19.0
介護保険に位置づけられた事業所	18.7
介護予防プラン作成	15.8
成年後見制度の利用	10.2
権利擁護	6.3
その他	2.1
(無回答)	11.3

表 6 「地域包括支援センター」の業務・機能で知っていること

「地域包括支援センター」のサービスで強化すべきもの（n=846：複数回答）
 5割半ばが「高齢者等の様々な相談支援」サービスを強化すべきと回答している。「医療機関と介護・福祉との連携体制の構築」サービスも4割半ばにのぼる。

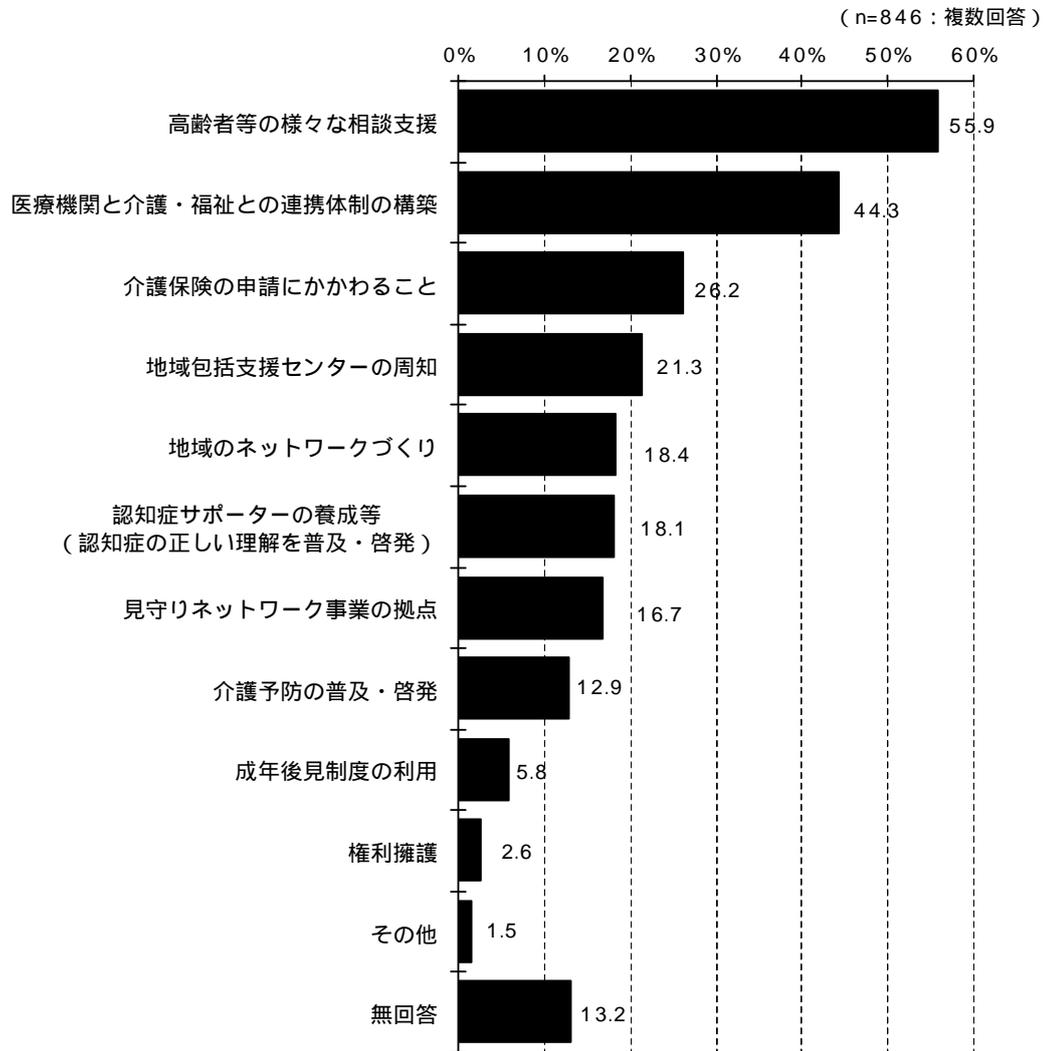


図 28 「地域包括支援センター」のサービスで強化すべきもの

「地域包括支援センター」で強化すべきサービスとしては、「高齢者等の様々な相談支援」(55.9%)が5割半ばで最も多い。以下、「医療機関と介護・福祉との連携体制の構築」(44.3%)、「介護保険の申請にかかわること」(26.2%)、「地域包括支援センターの周知」(21.3%)、「地域のネットワークづくり」(18.4%)と続いている。

高齢者の生活や介護に関する相談先 (n=846)

高齢者の生活や介護に関して「相談したことがある」は1割半ばであり、相談の相手としては、「ケアマネジャー」(45.3%)、「市役所」(38.8%)、「かかりつけ医、病院等医療機関」(38.1%)の順になっている。

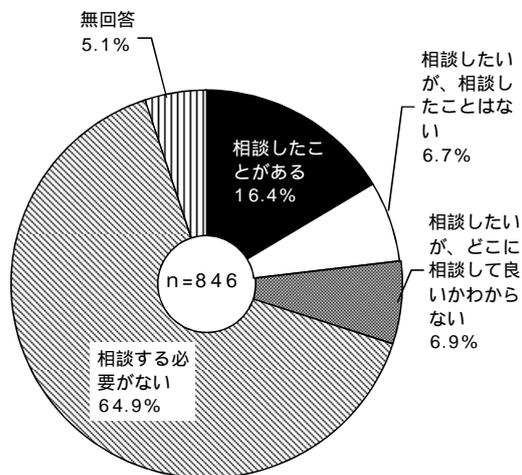


図 29 高齢者の生活や介護に関する相談

(高齢者の生活や介護等に関して「相談したことがある」答えた人 n = 139 : 複数回答)

高齢者の生活や介護等に関しての相談をどこ(だれ)にしたか	割合(%)
ケアマネジャー	45.3
市役所	38.8
かかりつけ医、病院等医療機関	38.1
家族・友人	31.7
地域包括支援センター	30.9
介護サービス事業所	20.1
社会福祉協議会	5.8
民生委員・自治会・近所、地域の人	2.2
介護予防推進センター(いきいきプラザ)	2.2
インターネットの掲示板やチャット等を利用した相談	0.7
その他	2.9
(無回答)	0.0

表 7 高齢者の生活や介護に関する相談先

【災害時の避難所】について

自宅から一番近い一次避難所を知っているか (n=846)

7割半ばが自宅から一番近い一次避難所を知っている。また、8割半ばがあらかじめどこかの一次避難所に避難すればよいか「指定されている方がよい」としている。

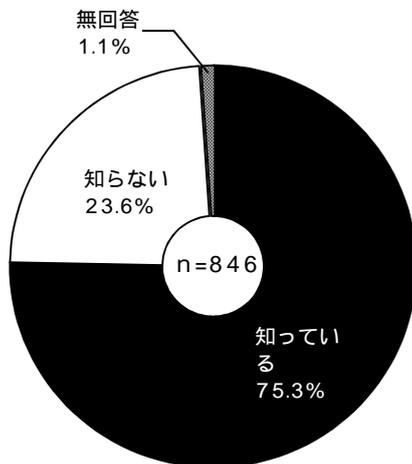


図 30 自宅から一番近い一次避難所

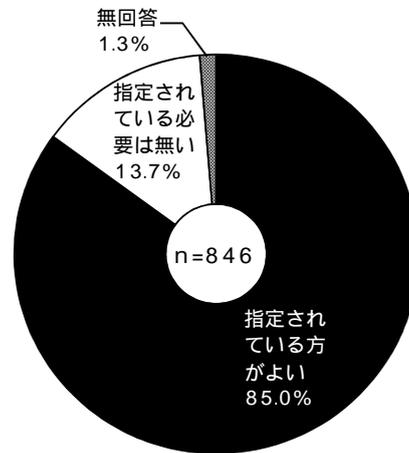


図 31 一次避難所の指定

避難所の運営に協力できるか (n=846)

避難所の運営に「協力できる」が8割を超える。「協力できない」理由としては、「体力的に自信がないから」(54.5%)、「避難所の運営について知識がないから」(31.5%)の順となっている。

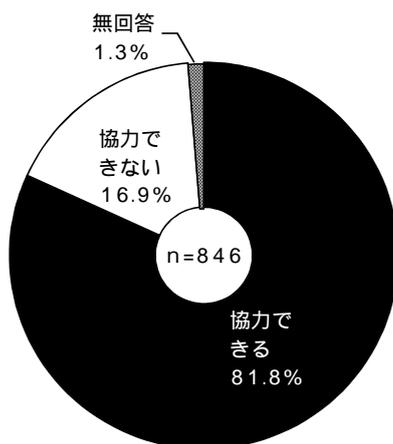


図 32 避難所運営に協力できるか

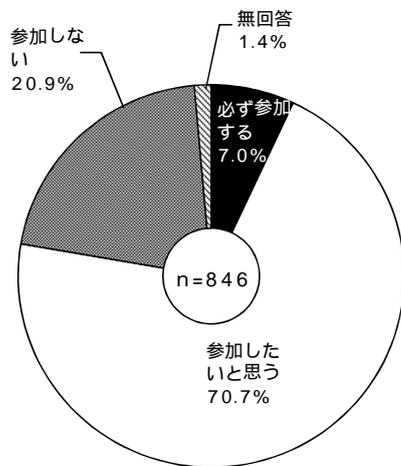
(避難所運営に協力できないと答えた人 n = 143)

協力できない理由	割合(%)
体力的に自信がないから	54.5
避難所の運営について知識がないから	31.5
家族に要介護者がいるから	18.9
国・都・市が運営すべきと思うから	12.6
自治会や自主防災組織等、地域の互助団体が運営すべきと思うから	2.8
自分には関係がないから	0.0
その他	22.4
(無回答)	0.0

表 8 避難所運営に協力できない理由

避難所運営訓練が実施されたら参加するか (n=846)

避難所運営訓練に参加したいが 8 割近くを占める。



「必ず参加する」(7.0%)、「参加したいと思う」(70.7%)を合わせると、8割近く(77.7%)が「避難所運営訓練に参加したい」と思っている。

図 33 避難所運営訓練への参加

年代別でみると、「必ず参加する」「参加したいと思う」を合わせた割合は、60歳代が88.7%と最も高く、20歳代では72.1%になっている。

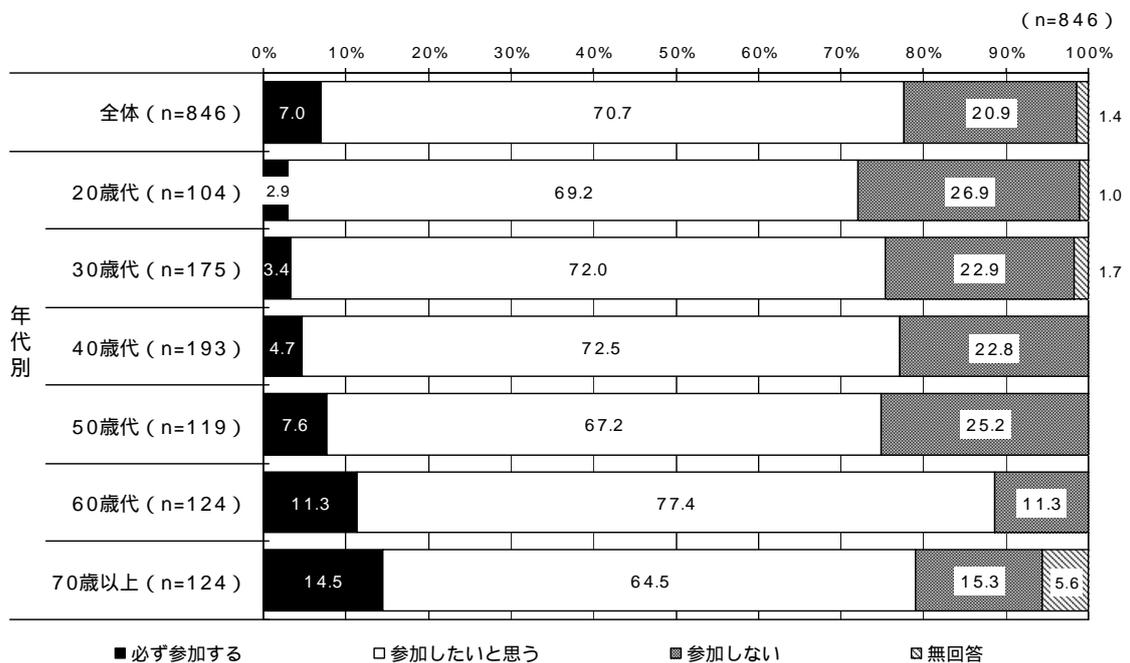
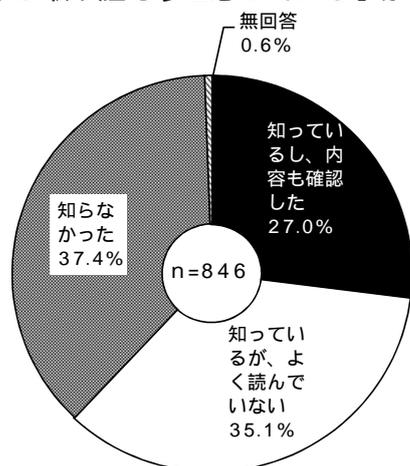


図 34 避難所運営訓練への参加 (年代別)

【防災ハンドブック】について

市で各家庭に配布した「防災ハンドブック」を知っているか（n=846）

「防災ハンドブック」の内容まで確認しているのは2割半ばにとどまる。「防災ハンドブック」を読んで取り組んだ防災対策では、「非常持出品・防災用品を用意した」が8割半ばで最も多い。「防災ハンドブック」を読んだが、何も防災対策に取り組まない理由では、「これから取り組もうと思っている」が4割半ばである。



「知っているし、内容も確認した」(27.0%)「知っているが、よく読んでいない」(35.1%)を合わせる(62.1%)と、「防災ハンドブック」を知っている割合は6割を超えるが、「防災ハンドブック」の内容まで確認しているのは2割半ば(27.0%)にとどまる。

図 35 「防災ハンドブック」

(「防災ハンドブック」を知ってるし、内容も確認したと答えた人で防災対策に取り組んだ人 n=160:複数回答)

「防災ハンドブック」を読んで取り組んだ防災対策	割合(%)
非常持出品・防災用品を用意した	82.5
避難方法、最寄りの避難場所や避難所を確認した	62.5
家族との連絡方法や役割を確認した	58.8
家具類の転倒防止や落下防止対策をした	49.4
災害への知識や対応に関する情報を集めた	23.1
消火器の使用方法を確認した	19.4
ガラス飛散防止フィルムを貼った	6.3
家屋・塀などの耐震化診断や補強をした	5.6
最寄りの消防署で救命講習を受講した	4.4
その他	3.1
(無回答)	1.9

表 9 「防災ハンドブック」を読んで取り組んだ防災対策

(「防災ハンドブック」を知ってるし、内容も確認したと答えた人で防災対策を特に何もしていない人 n=61:複数回答)

防災対策を特に何もしていない理由	割合(%)
これから取り組もうと思っている	45.9
防災対策に取り組む時間的な余裕がないから	19.7
防災用品等を購入する金銭的な余裕がないから	18.0
どのような防災対策をすれば良いかわからないから	11.5
避難所に避難すれば良いと思っているから	9.8
既に十分な対策をしているから	9.8
必要を感じていないから	6.6
面倒だから	4.9
その他	16.4
(無回答)	3.3

表 10 防災対策を特に何もしていない理由

第 44 回府中市市政世論調査（概要版）

平成 24 年 9 月

発行：府中市政策総務部広報課

東京都府中市宮西町 2-24

Tel 042-366-1711

実施：株式会社 T D S

東京都府中市晴見町二丁目 24-1

Tel 042-352-3330